

7-1

認知症介護と生きがい作り

利用者の「瞳が輝く」学習療法と裁縫クラブ

日中活動の充実

個別対応

特別養護老人ホーム 第二紫水園

発表者：栗原かず子（リハビリ係）	共同研究者：八百房隆・村上優子（リハビリ係）
所在地：東京都あきる野市高尾516	共同研究者：須崎哲央（管理係）
TEL：042-596-5280	E-mail：info@dainishisuien.or.jp
FAX：042-595-1398	URL：http://www.dainishisuien.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	東京の西部あきる野市に昭和59年、100床の特養として開設。従来型多床室の施設ですが平成17年よりグループケアを実施、個別ケアの充実に取り組んでいます。他には昭和48年に開園した紫水園が平成18年にユニット型100床、10ユニットに改築。平成22年5月には三鷹市に第3の施設、三鷹紫水園（ユニット型130床）が開園予定です。
----------------------------	--

＜取り組んだ課題＞

- ◎ 入所者の重度化（平均介護度 4.1）に伴い認知症の利用者が増加→施設行事・レクリエーションのあり方の見直し
- ◎ 比較的自由度の高い方達の「介護・認知症予防・生きがい作り」
- ◎ 個々に合った日中の過ごし方→生活の張り合い・充実
- ◎ 個別対応の充実→介護の質の向上

＜具体的な取り組み＞

- ◎ リハビリ係3名（学習療法3名、裁縫クラブ1名）で行う週間業務体制の確立
- ◎ 利用者のスケジュール調整（入浴時間等）

① 学習療法

対象者：認知症の方で会話のできる方
時間：週2回、30～40分

- * 手作りの教材を作成
- * 文字や数字、絵等が認識できるか遊びを通して各自のプログラムを作成
- * 回想法をしながら「自分史」が完成し家族へ
- * 家族会で学習療法の内容を説明→家族からも好評をいただいた
- * 家族へ手紙を書き、返事をもらう→家族との絆の確認、励み、生きがいにつながる

② 裁縫クラブ

対象者：比較的自由度の高い方や認知症でも針仕事が好きな方
時間：週1回、2時間半
年令：68才から104才（開園以来25年在園の入所者）

- * 材料費は各自負担
- * 職員から布地や手芸材料の寄付あり
- * 毎年10月に行われる文化祭へ出展
- * 実用的な物を作り身近に置いたり家族への贈り物に
- * 今年作成した作品の一部をリハ室前の廊下に展示

＜活動の成果と評価＞

① 学習療法

- * 会話の中から利用者の歴史に関わる集大成として約1年かけて「自分史」が完成、利用者を深く理解でき家族にも好評を得ている
- * 職員が自分に注目してくれているという安心感、満足感が利用者の笑顔からうかがえた

② 裁縫クラブ

- * 簡単な直線縫いで出来る作品が完成し、文化祭への出展や家族への贈り物となり利用者の満足感や自身の励みになった
- * 母の日に家族から布地のプレゼントがあり、家族とのつながりがよりいっそう深くなった
- * ショートスティ利用者からも手芸材料の寄付あり
- * 裁縫クラブがいつあるのか予定表を何度も見に行くようになった
- * 第三者評価を受審し学習療法と裁縫クラブについて高い評価を受けた
- * **心が動けば身体が動く⇒自然のリハビリにつながった**

＜今後の課題＞

- * 学習療法や裁縫クラブへの参加者以外の利用者の楽しみを見つけ出すこと
- * 自分史以外にも戦争の体験談などをまとめてみたい（文集としての出版等も検討）

【メモ欄】